

チェックリスト

- ①原稿の字数及び行数は 40 字×40 行、余白は上下左右 25mm となっている。
- ②研究題目は表題 14 ポイント（MS ゴシック体）となっている。
- ③（副題がある場合）副題は 12 ポイント（MS ゴシック体）となっており、前後にダッシュ(―)をつけている。
- ④（教育実践研究報告書の場合）研究題目から 1 行空けて 10.5 ポイント（MS ゴシック体）で学籍番号及び氏名を記している。
（実践報告及び教育研究資料の場合）研究題目から 1 行空けて 10.5 ポイント（MS ゴシック体）で所属名を書き、改行して氏名を記している。
- ⑤原稿の見出しは、「1.」→「(1)」→「①」→「a」（欧文及び算用数字は全て半角）の順番となっている。見出しは MS ゴシック体となっている。
- ⑥本文の文字は見出しを除き MS 明朝体となっている。
- ⑦本文の文字の大きさは見出しを含めて全て 10.5 ポイントとなっている。
- ⑧和文は全角文字、欧文及び算用数字は半角文字となっている。
- ⑨句読点は全角の「。」と全角の「,」を使用している。
- ⑩年代の表記は西暦を用いている。
- ⑪（図や表を用いている場合）「図 1」、「図 2」や「表 1」「表 2」のようにそれぞれ通し番号をつけている。図の表題はその下部に、表の表題はその上部に付している。
- ⑫注記号の形式は「1」、「(1)」のいずれかとなっており、「(注 1)」となっていない。
- ⑬注記号は文章の始まりから 1, 2, 3, 4…と順番に数字をふっている。
- ⑭注記号が括弧記号(「 」)と連結する場合は括弧の外の位置に数字をつけ、句読点と連結する場合は句読点の手前の位置に数字をつけている。
- ⑮注釈を掲載する場所は本文の後ろとする。本文末から 1 行空け、MS ゴシック体で「注」と記してから注記号の数字の順番に注釈をつけている。
- ⑯注と引用文献の表記は、「本文末に一括して記載するパターン」もしくは「本文末に別々に記載するパターン」のどちらかに基づき作成されている。

※ ⑫～⑯について、専門分野により既定の書式がある場合は、それに準じていれば良いものとする。